

令和7年度 学校評価

自己評価の指標（肯定の割合） A：80%以上（満足できる） B：60～79%（もう少し） C：50～59%（改善が望ましい） D：49%以下（改善が必要）

質問番号	質問内容	各分掌、各学年部による振り返り（成果と課題）	自己評価	学校関係者評価（学校運営協議会委員による評価）		令和7年度			令和6年度		
				総合評価	コメント	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員
1	ホームページやclassi配信などは、本校の状況を知るための適切な発信であったと思いますか。	全体的に高いポイントを維持している。特にclassi配信を活用して、生徒・保護者ともに必要な情報を迅速に発信することができた。また、目的に応じてホームページとclassi配信の使い分けも有効に行えた	A	A	教員は100%だが、保護者・生徒はそこまでではない。学校の活動（HP、note記事等）はよくわかる。発信は充実していたことが質問番号6,7の項目にも好影響を与えている。						
2	学校は、PTAや卒業生会、地域などと連携して学校行事等の教育活動をよりよく実施できたと思いますか。	全体的に高いポイントを維持している。PTAや卒業生会との密な連携によって、学園祭や創立70周年事業など多大な協力を得ることができた。	A	A	PTA会長が学校とよく連携し、評議員にも共有している。						
3	一人一台端末を含むICT機器の活用は、生徒の学習にとって効果的なものであったと思いますか。	肯定的な回答の割合が9割程度であった。1人1台端末が定着し、Googleアプリによる課題提出や振り返り、グループ活動、オンライン授業など幅広く活用された。	A	A	chromebookだけ不十分なのか。（探究活動等）使い回せないで家族の負担になっている。卒業後の活用も課題。						
4	本校が伸ばしたい資質・能力を意識した授業や教科横断的な授業が実践されるなど、組織的に授業改善が図られたと思いますか。	生徒や教員の肯定的な回答の割合が大きく減少している。今年度は教務部が主導して、授業改善や伸ばしたい資質・能力の課題を明確にし、各教科で連携して組織的に取り組むことができなかつたことが原因と考えられる。次年度に向けて、まずは高校魅力化アンケートや授業アンケートから本校の課題を分析する必要がある。	C	C	校外の人が見やすい公開の仕方を考えては。なぜ取り組むことができなかつたのか？教員不足・世代の配分・若い教員の指導などが要因か。教科横断など面白いことをやっているけど表に出ていない。地域での活動は見える。今年は見える機会が増えたが授業によってはコラボ授業が活発だったが、それを率先していた先生が異動し減った。教員の自己評価は「やりたいことがやれていない」の声。負担感や多忙感。12月のインフルで帰省の影響もある。先生たちそれぞれの問題！組織的という意味での主導の問題？						
5	自治的な寮運営実現のための支援や定期的な面談などを通じて、安心・安全に寮生活ができる環境整備ができたと思いますか。	昨年度の評価が著しく低かったこともあるが、保護者・生徒・教職員の全てにおいてポイントが上昇した。寮内の問題も少なく落ち着いた寮生活ができており、毎学期に実施している寮生保護者との対話会では、保護者とともに寮運営について対話することができたことが成果に繋がったと考える。	B	B	（R6の会で）言われたことを全部改善する必要はない。トラブルは少なくなった。生徒の否定派は下級生かも（上級生優先ルールなど）HM（ハウスマスター）からの情報発信や寮食（ごはんが足りない等）のトラブルがないだけでなく、改善を加えて生徒の満足度をもっと上げていきたい。去年低かったのが改善。保護者は劇的に向上したのは保護者との対話会を開催したため。生徒はまだ6割。「わくドミ」（生徒との対話会）来年度以降は寮長以外も月1回。徐々にクレームから一緒に考える提案の場に。生徒はまだできる。						
6	健康観察や保健だよりなどを通じて、生徒が心身ともに健康な状態で学校生活を送るための適切な支援ができたと思いますか。	保護者のポイントが大きく上昇した。毎月発行している保健だよりにより、学校の保健関係の情報を発信できたと考えている。また、感染症に罹患した際にクラスターで通知するとともに、トークルームで保護者と連絡を取り合うことができているため、高評価に繋がったと考える。	A	A	感染症での規制について検討が進んでいるか不透明。						
7	いじめアンケートの実施や生徒と教職員の対話の機会の創出などを通じて、生徒が安心・安全に生活するための適切な支援な支援ができたと思いますか。	生徒・保護者の肯定的な回答が増加している点については、昨年度に比べ「いじめアンケート」からの事案が減少したのものであると考えている。また、事案についても早期対応を実施することができた。今後も生徒が安心・安全に生活する環境を整えていきたい。	A	A	三者の意識が同じくらい。きめ細かく生徒を見てもらえる。						
8	部活動と地域活動の両立を支援する環境が整い、生徒が自主的・協働的に隠岐島前地域で活動することができたと思いますか。	部活動を欠席する理由として地域活動が認められつつある。今後も引き続き島前地域において主体的に活動できる環境を一層整えていきたい。	A	A	地域活動と部活動の両立が良いところ						
9	面談や学年通信、キャリアプランシートの活用などを通じて、生徒及び保護者が必要とする情報が提供されていたと思いますか。	生徒のポイントが上昇した。各学年会で生徒との面談に必要な伝達事項の共有を図ったことなどが要因ではないかと考える。また、第3学年の他学年に比べて評価も高く、キャリア伴走体制が一定の効果をもたらしたのではないかと考える。一方で保護者のポイントが若干減少しており、進路情報を学年通信やclassi等で提供していたが、昨年度よりその頻度が減ったことが原因ではないかと考える。来年度は最新の情報など今年度以上に適切に伝えていきたい。	A	A							
10	夢探究をはじめとした本校の3年間の探究学習プログラムは、本校が目指すグローバル人材育成に資するものであると思いますか。	保護者のポイントが上昇した。これは学科選択プロジェクトなどで、各学科の特徴を分析し、その情報を丁寧に伝達できたことが要因ではないかと考える。一方で教員のポイントが下がった。特にグローバルの視点が少ないこと、普通科の探究学習プログラムが過渡期であることが原因ではないだろうか。現在、2年生普通科の探究学習プログラムを再編成しているところであり、全学年通して体系的な見直しを図っていきたい。なお、本校の「目指したい人材像」の文言が漠然としており、実態に合わせたものに変更を加えていく必要があると考える。	A	A	（共創科との違いについて）普通科は3年が進路学習、2年は「教科×探究」受験の有利不利は進路によるが、共創科はプロジェクトに時間を多く費やしている分、進路に直結しやすい。						